特249
641

0010228000

0010228-000

特２４９－６４１

世界の不安と日本の立場

本多熊太郎・述

全国町村長会

上

昭和６

ABJ

特249
641

世界の不安と日本の立場

（上）

自治講演パンフレット第十四輯

本多熊太郎述

全國町村長會

343
350

特249
641

例言

本篇は、前駐獨大使本多熊太郎氏の講演の要旨を筆記したるものなるが、同氏多忙にして校閲を受くる暇なく、止むを得ず其の儘印刷に附したるものなり。

（文責在記者）

世界の不安と日本の立場

本多熊太郎

昭和七年一月二日 帝國

一流のお話し申上げたことは、皆様が今後日常新聞紙上で色々世界の動きであるとか、或は國際關係に於ける政治上或は經濟上の出來事なり、意見なり、或は評論なりを御覽になる場合の一種の批判資料と申しますか……さういふ意味に於ての若干のヒントを腦中に御殘し下さるならば仕合であります。

二

先づ順序を追ふて獨逸の財的混亂の事情からお話しを致しませう。獨逸は御承知の通り世界戰爭に負けて、そうしてブルサス・ローレンも取上げられゝば、ジョーヴ・シレジヤといふ非常な有利な

炭坑地も之は國際聯盟の非常に無理な採決で波蘭と半分分けにされて仕舞つた。國内の鐵の四分の三と申しましたが、石炭の三割か四割、兎に角現代産業に於て最も必要な資源の大部分を取られた、それから英吉利に次いでの海運國であつたその商船は悉く取上げられた。植民地は皆取上げられた。それから今までの戰爭に例のないことで、敵國人の私有財産は不可侵のものと國際法も國際慣例も無論さうなつて居つたものを、この間の歐洲大戰では戰爭の中途から獨逸人の私有財産を皆取上げた。海外財源を取上げられ、植民地を取上げられ、商船を取上げられ、國内の産業資源の一番重大な鐵と石炭の資源の大部分を取上げられた。而して天文學的數字の賠償金の支拂を言付けられた。今日この世界不況の主なる原因中の一番有力な原因は、獨逸賠償問題の爲に、この賠償問題に對する聯合國、即ち吾々の側、聯合國側のやり口程、條理と常識から見ておかしなやり口はないのです。巴里の講和會議、御承知の通り六箇月掛りましたが、其間獨逸とは會議を一度もしない、六箇月は即ち獨逸を打負かしたと稱する所謂聯合國側諸國の間の、確執やら、喧嘩やら、議論やら、妥協やらにあれだけかゝつたので、それが出來て、やつと講和條約の案が出來ると獨逸を呼出して、これへ判を捺せと否應なしに判を捺させた、捺さないと獨逸は經濟封鎖を受けて居るのであります るから、國民の最小限度に必要な榮養資料すら得られない。詰り獨逸六千萬の國民を擧げて——

獨逸ばかりではないのですが、墺地利五千萬、勃牙利何百萬の國民、この多くの人間を飢餓の境に突落して條約案を突付けた。支那人がよく言ふ二十一箇條々約なるものが、大正四年脅迫の下に調印したのだといふが、そんな所の騒ぎぢやない。詰り判を捺さなければ獨逸人は人間として活きて行けないといふ窮地に陷つたのです。否應なしに判を捺し、その六箇月間の講和會議即ち聯合國側の内輪の會議に於きまして到頭遂らずに未了の儘で講和條約の中へ書込んでしまつたのは賠償金であります。

三

賠償金は獨逸からいくら取るかといふことになると銘々に中々大きな數字を擔ぎ出す、例へば佛蘭西の場合に付て言へば、御承知の通り千八百七十年、七十一年の戰爭……ナポレオン三世がセダンに於て虜になつた普佛戰爭、あの際に講和條約に依つて佛蘭西は獨逸に五十億金法の賠償金を拂はせられた。アルサス、ロールレンの工業資源の豊かなる二州を取られた外に、五十億法、日本の二十億圓、明治七年の五十億法といへば今日では餘程大きな金に相違ない。それを佛蘭西は三箇年間に綺麗に拂つてしまつた、所がこの間の戰爭でいよ〳〵講和といふ頃になると、佛蘭西の輿論は、

この間の戰爭で受けた一切の損害は勿論のこと、又懲罰を含んでの罰金的性質の金高は勿論のこと、更に進んで五十年前に自分の方で戰爭に負けた時に拂つた五十億といふ償金に、爾來の利子を重利法で掛けたものを取らなければいかぬ。これなどは最も極端なる一例であります。英吉利の方は、隨分頭は冷靜で、常識と數理を外れたことは一番言ひさうもないのは英吉利側であります。而も英吉利の方では講和會議の賠償委員會の際に、當時の英蘭銀行の總裁であつたロード・カンリフといふ人を出した、この人が出て居る英國でさへ一體獨逸からどれだけ取れるだらう、獨逸の支拂能力如何といふことを考へた、第一賠償問題で各自が要求する金額幾何ぞ、次にそれだけ要求するが獨逸の支拂能力といふものはどれくらゐである、支拂能力と餘り隔つた數字を出して見てもそれはいかぬから、結局は各國の出す數字を獨逸の支拂能力に對して調節して賠償金といふものを條約に書込まなければならない。そこで獨逸の支拂能力如何といふ問題になると、世界第一流の經濟財政通である英蘭銀行の總裁カンリフ卿が——六十から七十に近い老人で、戰爭中に私も二三度會つたことがあります。洵に立派な落著いた人である。財界の老巧練達の一流の巨頭、この人でさへ、獨逸は少くとも一箇年に日本の金でいへば百億圓ぐらゐ拂ふ能力があるといふのである。獨逸が海外で有つて居つた植民地の獨國人の私有財産まで、椅子卓子まで取上げたのです。その外資源は皆沒收

してしまつた。さうして國內資源の大部分は取上げた、さうして獨逸は土地を小さくして人口を減して居る、その獨逸がまだ年額百億圓位の賠償支拂能力がある、それを向ふ何十年やるくらゐの力がある。斯ういふ說を英國第一流の財界の巨頭が眞面目に言つて居る。その他推して知るべし。詰り敵愾心が非常に熾烈であつた、それから、初めはそれ程に思はなかつたが、戰爭が一年が二年となり、二年が三年、四年になつて獨逸の實力といふものが、初めは實力以下に評價して居つたものが、段々と獨逸の奮發努力で世界二十何箇國を敵に廻して而も封鎖されながら墺地利とか勃牙利、土耳其などゝいふ足手纏ひの同盟國の四箇國を引連れて、さうしてこれに飯を食はしてこれに戰ひの指導をし指揮をして負けた所へは獨逸軍が行つて援けてやる、この働きを見て獨逸といふものゝ實力の詢に侮り難いのを感じて惜いのが百倍と、それから獨逸の經濟能力といふものを非常に買被つた。もう一つは彼等同士卽ち吾々の側で各自に大きな金を取らうといふのだからいつまで議論しても纏まらない。佛蘭西の如き五十年前に拂つた償金を、重利法で取返さうといふのだからそれだけでも一千億近い金になつてしまふ。それであの講和條約で見ると獨逸の賠償總額といふものは決めて居らぬ。取敢へず獨逸は百億馬克の債務證書を入れる、それから戰艦とか、船とか實物賠償を開始する。賠償條約は講和條約で決めた賠償委員會といふもので追つて決める。さうして講和條約

に判を捺さしてしまつて獨逸から百億馬克でしたか二百億馬克でしたか、兎に角その金の債務證書を取つて、それはまあ第一次支拂、それに達するまで、金錢或は品物を以て支拂を開始させるといふことになつたのであります。

さうして、英、佛、伊太利、日本、白耳義などの諸國が屢々會合して賠償總額を幾らに決めるか、又各國の賠償取分の比率をどうするか、又この比率が非常にむづかしい。各自に一文でも餘計取りたいのは人情、結局この比率は佛蘭西が賠償支拂年額の五十二パーセント取る、詰り一億圓拂ふとすれば、佛蘭西が五千二百萬圓、十億圓なら五億二千萬圓、他の總ての國が取る賠償額の半分よりまだ二パーセント多い。英吉利が二十六パーセント、白耳義は特別の事情があるからこれは餘程割の良い方で一割幾ら、日本は千分の七。斯ういふ風に聯合國の賠償金分割の比例が出來たが、今度は賠償總額は非常に大きな數字であつたのを段々にまあそれぢや餘りだからといふやうなことで一總額の決まつたのがやつと大正十年の春、講和條約は大正八年の五月に調印されて居りますから、その間二年かゝつて獨逸から取る賠償金の總額は、聯合國側卽ち戰ひに勝つた方の側だけで決まつてしまつた。一千三百二十億金馬克といふのである。さうして獨逸を呼び出して一千三百二十億馬克と決めてこれに判を捺しなさいとやつたのである。その判を捺しなさいも中々只では獨逸は應ず

る氣遣はない、何となれば獨逸の方から言ひ出すとすれば二百億馬克以上に言ふことはない、それ以上は拂へないといふに違ひない。二百億馬克とした所で百億圓である、大變なものである。そこで大正十年の五月或は六月でありましたか、恰度倫敦で英、佛、日、伊の大國會議で獨逸に最後通牒を送つた。一千三百二十億馬克の賠償金を認めて支拂に着手せよ、これを承知しなければハンブルグとブレーメンを聯合國の海軍で封鎖してそれから講和條約に依つて當然占領する地帶の獨逸の產業地を、それに接續せる聯合國の陸軍で占領するぞと威迫强請をしたので、獨逸ではそれをやられては大變だからベルサイユ條約に判を捺したと同じ心持でこの賠償金支拂案に判を捺した。

四

それから獨逸の態度はどうであるかといへば、國內に於て色々の流れはありまするが、時の局に當る政府、當時の獨逸內閣は屢々替りましたが、內閣は替つても局に當る人達の考へは同じで、これは力を以て當つても逆もいかぬ、これは仕方がないから出來るだけ誠意を以てこの賠償金を能力のある限り盡して拂はふ、當時聯合國側の指定せる額は無茶な空想的數字なんだから兎に角出來るだけ拂つて、獨逸の誠意を徹底せしめて置けば彼等も聽てこれは無理だといふことが分つて來るで

あらう。獨逸は拂ひ得るものを拂はぬのぢやない、拂ひ得るだけは無理をしても拂ふのだ。これを履行政策と謂ふ。この履行政策で獨逸は先づ大正十年の倫敦最後通牒以後眞面目に支拂に掛つた。所がこれは忽ち行詰つてしまつた。獨逸が賠償金を支拂ふのには、一方は御承知の通り實物辨濟即ち品物で拂ふ、今でもそれは續けて居るのです。他方は金錢で拂ふ。所が獨逸には金が無い、金錢支拂はどういふ方法でやつたかといへば、馬克紙幣を盛んに出してこれを海外個人に賣つたのです。詰り獨逸から賠償金を取らうといふ側の英吉利人、佛蘭西人、日本でもこれを買つた人は澤山ある。大分皆損をして居る。亞米利加人、それから中立國の人間、獨逸といふものはへたばりつこはない、今馬克が平時一磅(卽ち日本の十圓)に對して二十馬克であるものが、百五十馬克とか二百馬克とかなつて居るが、これはもう獨逸は復興するに相違ないのだから、この馬克が只のやうな安い時に買つて置けば、半分値に上つても大層儲かるといふやうな譯で、聯合國側、所謂敵國側並に中立國の、要するに世界中の慾張連が皆獨逸の紙幣を買つた。それが磅や圓や法で拂はれるのであるから、その金を以て賠償金の金錢支拂をする、何のことはない獨逸は只の紙を印刷して、それを諸敵國、中立國の慾張連に賣り付けてさうしてそれを拂ふ。斯の如くにして大正十三年の春、あのドーズ案といふものが出來た頃に、ドーズ委員會で調べた所に依ると獨逸は紙幣の輸出だけで七十億海外に正

貨を持つて居る勘定になる。けれども倫敦最後通牒に決めた全額まできちんと拂はないけれども誠意を示して置いて今度は賠償支拂の緩和を求めた。

五

所が佛蘭西では、この獨逸といふものが非常に恐い。なんでも一つ獨逸をして元の獨逸になり得ない程度にまで叩き付けるといふことが、佛蘭西の安全保障の上に絶對必要だ、斯ういふ風に佛蘭西の誰しもが考へて居つたのである。賠償金に付ては一歩も假借しない、間違つたら直ぐ兵を入れて——有名なるルール占領を到頭大正十一年にやつたのですが、あれは屢々兵を入れて抑へやうとしては英吉利の方にそれを抑へられて居つた。英吉利ではそれを抑へてさういふ亂暴なこととはさせまいとする、そこで色々の經緯が英佛間にありましたが、結局佛蘭西は英吉利の異存に拘らず白耳義を引連れてルール占領と出掛けてしまつた。そのルール占領と出掛けて、十五萬の兵を入れて獨逸の最も大事な工業地帶を抑へて占領行政を布くといふ騒ぎになつたのですが、それに對して獨逸は消極的抵抗といふ方法を執つた。消極的抵抗とは何ぞや、武力を以ては抵抗は出來ぬ、併し佛蘭西の言ふことを聞かぬ、ぢつとして居る。佛蘭西が來て石炭を掘り出して持つて行く、それを知

ちぬ顔をして見て居る。併し佛蘭西の技師及び佛蘭西の軍人が指揮してこの坑へはいつてもつと石炭を掘れといつても、獨逸の勞働者は言ふことを諾かぬ。政府が命令せんでもあの時佛蘭西の占領區域に於て一番先に自發的に抵抗した者は獨逸の勞働者である。資本家は寧ろ後について行つたやうなものである。佛蘭西の兵隊が來て炭坑を占領する、工場を占領すると誰か知らぬが工夫長のやうな者がが〳〵鐘を鳴らすと全工場の勞働者が皆出て行つてしまつた。中には直接行動で佛蘭西の占領兵に抵抗して銃殺された者も澤山あるが、獨逸の勞働者は寧ろブルジョア以上に國家意識をあの時發揮した。兎に角占領地帶に對して伯林政府から益々消極抵抗をして居る地方に對して出來るだけの支持をする爲に金が要る、金とは何ぞや、印刷局の機械を運轉して紙幣をどん〳〵造る、そこで結局一磅の金が一億馬克といふやうなことになつてしまつた。さうなると天文學的數字を越えて微分積分に依らなければ一億が幾らになるか分らぬくらゐである。その時分に日本では馬克を隨分高い値で東京で賣つて居つたやうでありました。併しこれで獨逸人の多年の勤勉の結果たる財産もなにも溶けてしまつた。借金も溶ける代りには財産も溶けてしまつた。それでこれはもう迚もいかぬといふことになつてしまつたのであります。賠償問題が政治的に紛糾して到頭武力占領まで行き、獨逸がそれに消極抵抗を續けた爲に獨逸の貨幣といふものは貨幣の用をなさなくなつてしま

つた、貨幣が貨幣の用をなさなくなれば人間の身體の脈が止つたと同じやうに、一國の經濟生活から言へばそこで獨逸も死んでしまつて、消極抵抗を拋棄して佛蘭西に降參をした。佛蘭西の方ではまた十五萬の兵を出して大に費用をかけて行つて見たけれども、軍事占領費の割に石炭も品物もはいつて來ない、獨逸が穩しく拂つて居つた若干億の金もはいつて來ない。暴れたゞけの損である。さうして獨逸は倒れてしまつた。

六

そこで自然氣運展開して、賠償問題を經濟化する、詰り政治問題の取扱をするから斯ういふことになつて、到頭獨逸の經濟生活を破綻せしめ遂にそれが歐洲經濟生活の破綻となつたのである。斯ういふことになつたのだから、これは一つ常識的に賠償問題は一つの純然たる經濟取引、債權債務の關係でするが宜い、斯ういふことに英米等が獨逸をも勸め、獨逸も勿論希望する所、佛蘭西を宥めて漸く出來たのが大正十三年から實施された所謂ドーズ法案、このドーズ法案といふものゝ特色はどこにあるかといへば、直接制裁は賠償問題に付ては加へない、さうして獨逸の產業、國有鐵道、國內工業等に、賠償支拂義務を負はせた。例へば國有鐵道を帝國鐵道會社といふ會社組織に定め、

鐵道の價格百五十億馬克と見てその百五十億馬克の債券を發行させる。さうしてそれに五朱の利を毎年賠償金に拂込ませるといふやうに、さういふ風にして賠償問題を一つのビジネス化して玆に賠償問題といふ時に武力行爲にまで訴へるいち〳〵する問題を、一先づ冷藏庫へ入れたのであります。ドーズ案に依れば獨逸は依然として財政上の主權は制肘を受ける、即ち賠償受取管理委員といふものは米國人のギルバート・バーカンといふ人でありましたが、それが任命されてやつて來てさうして或る程度まで獨逸の財政監督——大國としては依然としてこれは恥辱なのです。併し獨逸は欣んでそれを受けた——といふ譯は、もう賠償問題の上に武力を以て佛蘭西から虐められるといふ虞れがなくなつた。もう一つ賠償問題が、政治問題といふ範圍から脱してさういふ風に冷藏庫へはいつてビジネス化された爲に、獨逸の安定といふことに對する世界の信用がそこに生れて來る。獨逸人は獨逸人で徒らに悲憤慷慨して、講和條約の政治的事項や領土的事項などに對して色々喧しく言つて見ても、それは唯々今の鬱憤晴しにしかならぬ、獨逸の目前の急務は經濟復興にある。賠償金も負ふて居るし、この賠償義務から急に脱却も出來はせず、何れにしても獨逸産業の復興、これが目前の急務で經濟的に獨逸が復興すれば、政治的復興は自然に第二について來る。だから刻下の目標は差當り經濟的復興に總てを集中しなければならぬ。さう國策を決めると、今度はこれに次いで起

る問題は産業復興の爲に外資の輸入といふことである。金がない、それから貨幣制度は潰れてしまつた、昨日勞銀五十萬馬克貰つても日本の十錢ぐらゐにしかなりはせぬ、明日それが二百萬馬克に上つて見た所が、パンを買ひに行つたら昨日の三分の一しか呉れぬ、斯ういふやうな狀況である。そこで假りに不動産を擔保としてのそれを準備としてのレンテンマルクといふものを拵へた、けれどもこれは本當に金貨準備を獨逸帝國にしなければ本當の馬克にならない。ドーズ案制定を機として、先づ國内に於ては、相當の金準備を有する兌換銀行を作つた、それにも他所から金を借りなければならない、斯の如く通貨を復興して、他方に於て産業の復興合理化、新しく色々の仕掛けをする、その金を何處から借りるかといへば亞米利加より外に借りる所はない。亞米利加はうんと歐羅巴から金を取上げて、どこか見込のある投資先があればこれに金を貸したい。その亞米利加の眼から視ると——話しは大正十二三年頃の事なのです——獨逸は實に有望な投資地なのである。賠償問題さへ亞米利加の力で穏かに解決してしまへば、獨逸人はその勤勉よりその産業に關する施設より、それから今まで露西亞及び東歐羅巴一般、南米等、世界的に色々の商業連絡及びその素養をもつて居るこの獨逸といふものこそ、亞米利加が金を貸してやれば、斯うもするであらうし、あゝもするであらう、獨逸に金を貸すといふことは、亞米利加にとつて非常に有望な投資であ

る。そこで獨逸からいつても、ドーズ案を寧ろ英米に賴んで催促して成立さして貰つたので――ドーズ案が出來た所の獨逸は、賠償問題を冷藏庫へ入れてビジネス化して、レンテン馬克で獨逸は一旦潰れた通貨を復興させる一種の能力を發揮して世界を驚かせた。次には金を借りさへすれば獨逸産業復興の政策は總て成るので、その金は亞米利加から主として借りる。亞米利加も貸したい。故に於て財政監督もドーズ案も獨逸は鵜呑みにしたのであります。

七

そこでドーズ案に依つて獨逸の得た利益は何かといへば、聯合國側からは――まあ英米を中心としてですが、八億圓でありましたか、獨逸の金準備を作つてやる爲に金を貸して呉れた。これで土地、森林等不動産を準備とし擔保とし、レンテンマルクといふ紙幣が、本當に今度は金準備のある免換券となつて通貨が出來た。それで國内の人心も大いに安定する。第二に、獨逸にどん〴〵金を注ぎ込んで來た米國がドーズ案實施後、ヤング案とドーズ案が代るまでの五年の間に、獨逸に注ぎ込んだ金はこれは短期クレヂットで貸出した金などを入れると色々の數字が出來ませうが、假りに大藏省の津島財務官の書いたものを見ると、千九百二十四年から二十九年、一昨年まで五年間に、

獨逸が借りた金が、長期、短期を合せて百二十億馬克、六十億圓となつて居る。實はそれよりずつと多いのです。その後に出た色々のあちらの方面の文獻を見ると、千九百二十四年から本年までの七年間の間に獨逸は、日本の金にして百億圓くらゐ借りて居る、その中少くとも七割は亞米利加のものである。だから米國がドーズ案實施後獨逸へ注ぎ込んだ金は、二百億馬克――日本の金にして百億圓の七割とすれば七十億、六割と見れば六十億圓。斯樣に二百億馬克の金を借りて、さうして五年間に七十九億といふ賠償支拂を獨逸はしたのであります。であるから、差引手許へ殘つたのは百二十億――賠償に對する利拂ひも無論その中からして居るでせうが、要するに先づ大ざつぱに言つて、七八十億馬克、即ち四五十億圓の金が民間會社にはいつて來た、それで獨逸はめき〴〵とその間に産業復興をやつたのである。日本から當時獨逸へ行つた人――昨年獨逸がお尻を割るまでは如何なる國の人も殊に日本人にとつて獨逸に於ける經濟、産業の復興振りといふものは、實に眼を驚かし魂を奪はれる程で皆感心して歸つて來たものであります。あれは皆亞米利加の金であります。獨逸は借金をして産業經濟の立直しをして居つたのであります。これが千九百二十九年の秋、米國が所謂世界不況のトップを切つた、フーヴァーの繁榮政策の下に於て、米國は千九百二十九年の秋、紐育の取引所を第一現象として不況の波にはいつたのである。それを機として亞米利加は海

外投資就中歐羅巴殊に獨逸に對する投資を自然に控えるやうになつて來た、それは米國金融界の事情が然らしめたのであります。兎に角亞米利加はもう大分獨逸へ金を貸したといふやうな譯で、獨逸に對する亞米利加の財布の紐が締つた譯であります。今までドーズ案實施以來、ドーズ案所定の通り獨逸は年年賠償金を拂つて居つた、そこで賠償金を拂つて履行政策の誠意を具體的に現したが故に、段々と歐洲の政局も緩和され佛蘭西の氣持も段々と和いで來る、玆に於て、もと〳〵ドーズ案は暫定的のものであつて、第一千三百二十億といふ賠償總額に手を觸れて居らぬ、又獨逸は何十箇年一體賠償金を支拂ふものか年限も書いて居らぬ。であるから、それは元の倫敦最後通牒の通りだといふことに法理上はなる。ドーズ案が出來た頃に時の英吉利の大使ダラマン子爵はその立役者の一人だつたのですが、私の所に來た時に「どう君思ふ、これで獨逸も救ひ、歐洲も安定する、世界の經濟も復興するが君はどう思ふか」「至極結構、あなたが多大の骨を折られたから非常にうまく行つた、吾々も利益することゝ思ふ。時に賠償總額はどうしたんだ、千三百二十億ではいかぬぢやないか、あれをなぜ今度はもう少し穩かな數字に切下げなかつたのか」「それは君分つて居るぢやないか、それは先づ數年後だ。」そのくらるのことは勿論知つて居るけれども、餘り先生得意になつて言ふからちよつと水を差して見たのです。それを言ひ出すと繩らなかつた、それを言ひ出すと

佛蘭西が承知しないからなのである。

八

話しが少し脱線しましたが、世界の外交界に絶へず斯ういふやり方がある。關係各國何れも共同利害をもつて居る、而してその利害の內容が色々と矛盾して居る。さういふ事情のときに一氣にこれもあれもと色々解決しやうとすると、繩るものも繩らなくしてしまふ、だから先づそこは御互ひに腹に含んで次の機會まで納めて置く、機會が來たら手を看ける譯であります。ドーズ案が恰度それである、佛蘭西が折角和いで、ドーズ案に贊成する所まで來たのを、賠償總額を切下げるとか、年限を短くするとか言つたら、佛蘭西は僕の方は困る、責任をとらぬとか言つて佛蘭西の政治家は逃げる。これはまあ暫らくそうつとして置く。さうして五年經て、いよ〳〵五年目から、ドーズ案に依ると獨逸は年額二十五億馬克づゝ拂はなければならぬことになる、日本の金にして十二億五千萬圓づゝ三十七箇年か八箇年拂はなければならぬことになる。所がドーズ案に依る賠償金受取委員として行つて居つた亞米利加の專門家その他の話しに依つてもこれは實は出來ることではない。それはどういふことかといへば、ドーズ案に依れば、獨逸の租稅收入の一部、鐵道利益金の一部、或

る品物の專賣制度を拵へさしてその專賣から來る收入等、これを皆聯合國側の借方勘定として、請取勘定として、獨逸國内に於て獨逸の金の馬克で拂はせる。その馬克を今度は磅やら圓やら法に爲替を買つて支拂をする。獨逸が一度に澤山外國貨幣を買へば、例へば今年十五億拂ふとして、十五億全部を磅やら圓やら法やらに替へるといふことになれば、獨逸の爲替相場が下つて來る。爲替相場が下ると折角獨逸の爲に金本位の通貨制度を回復したその效果が徒勞になつて來るといふやうな譯で、馬克いくらとつて見た所で法や磅や圓に替へるといふことがすら〳〵出來ない。そこで獨逸はさういふ二十五億馬克といふやうな負擔は出來ない。そこでこれを妥當に直さうといふのが所謂ヤング案であります。

九

ヤング案に依れば、千三百二十億の賠償總額を、約四分の一の三百何十億かに總額を切下げてまけてやつた。まけてやつたといへば大層寛大のことのやうでありまするが、三百何十億圓といふ前金を昨年から拂はなければならない、その支拂年限は五十八年七箇月である、大ざつぱに言へば約六十年間である。さうして初めの當分は、第一期、第二期に分つて、第一期の十年間程は平均支拂

額は年額二十億馬克、日本の金の十億圓。それからは又段々減つて行くといふやうな案ですが、差當り獨逸は賠償總額四分の一にまけて貰つて、これで賠償問題は最終の解決をしたのであります。そこでいよ〳〵本年から支拂を開始することになるのでありますが、それは日本の金で十億圓づゝ拂はなければならないのであります。時も時なり世界不況が益々深刻化して行く、これは到底獨逸は拂へるものではない。今まで獨逸の支拂方法は、先程も御話したやうにドーズ案以前は紙にバタ〳〵判を捺して、印刷局で紙を印刷してこれを慾張りの諸敵國や中立國に賣つて居つたのであるから、なんのことはない實は取る方で負擔をして居つたやうな譯であります。その次はドーズ案だといつて、これでもつて二百億圓近くの民間外資を借りて、そのやりくりで五箇年間に八十億拂つた、あとのバランスで外債の利拂をして、國内の産業の合理化或は色々の地方事業など色々やつてしまつた。皆これは借金である。所が一番貸して呉れた亞米利加が財布の口を一昨年の秋から締めてしまつたのであるから、獨逸が賠償金十億圓を拂ふといつても、拂ふ途がどうしてもない。そこへもつて來て、この頃謂ふ世界不景氣のトップは、紐育のウォール・ストリートから起つた、先づ獨逸と亞米利加と相前後して不況のトップを切つた、而もその不況の程度に至つては、獨逸と亞米利加は比較にもならない。詰り獨逸が——今日の世界不況の原因は色々ありませうが、要するに千何百

億といふやうな莫棒な賠償金を獨逸から慾張つて、年に二十億三十億づゝ取らうと出た、これが何としても世界不況の一番有力なる原因であります。といふのはどういふ譯で不況の方へ現れて來るかといへば、私の見る所では二つある。一つは、結局獨逸は借金をして當座はいゝけれども、借金には自ら限りのあるものである、又借金すればそれたけの利子も拂はなければならない。民間外資の利拂ひを平均六朱として、二百億借りて居ればそれだけでも十二億拂はなければならぬ。更にヤング案の賠償金二十億馬克拂はされた分には獨逸はたまらない。だから獨逸人もそれを知つて居る、要するに國と國との間の對外支拂は、結局は貿易の輸出超過に依るより外にはない。品物で拂ふより外ない。それであるから獨逸は今から七年前に種々國策を考へた結果、要するに經濟復興第一義、少くとも吾々の眼の黑い間は、領土の回復とか、政治的なことは止めて、經濟復興第一義、元の獨逸の經濟狀態に回復すれば、自然に權力はついて來る。この國策を決めると同時に、又決めるが故に、第一の急務たる賠償金支拂の資源をどうしても輸出超過に求めざるを得ぬ、輸出超過に求めるといふことに決まつた以上は、產業合理化に依つて大量生產で廉賣輸出をする。所謂ダンピングである。斯ういふやうな譯で獨逸は產業合理化を行つたのであります。

一〇

また一方に於て亞米利加も產業合理化を行ふやうになつた。併し亞米利加は別な事情から產業合理化をやらなければならぬことになつたのであつて、これ又國策の結果から來て居るのであります。私の見る所では亞米利加は御承知の通り世界戰爭の直前までは世界中の人間の寄合世帶であつた。元は英吉利人が行つて開いた國でありまするが、段々大きくなるに從つて亞米利加の例の自由主義で、自由のホームランドは亞米利加だ誰でも來いといふ譯で、純粹のアングロサクソン本來の英國系の亞米利加人といふものは、少數になつたといふ程には行きませぬが幸うじて全人口の半分以上を占めて居る。さうして場所はやはり昔の十三洲で大西洋岸の東の方である、さうして亞米利加が西へ〳〵と伸びて來るに從つて歐羅巴のスカンヂナビヤ、獨逸、巴爾幹、その他の人種がどん〴〵はいつて來る、又紐育などゝいふ所は、世界で一番人間の雜居して居る所で、猶太人だけでも百萬も居り、伊太利人が三十萬も居る。亞米利加はそれが自慢だつたのである、我が亞米利加は人種の場である、それで緣なのは有色人だけである、白人であれば乞食、前科者も自由に亞米利加にはいつて居る、それが皆相當の亞米利加人になつて居る。所がこの人種の場といふ一枚看板が非常な國

策として弱點であるといふことを世界戰爭の破裂の時に亞米利加の指導階級が痛感したのです。それはどういふことかといふと、獨逸系が、第二世第三世まで入れまして二千何百萬、亞米利加人の多數五千何百萬は、英吉利人の子孫であるから聯合國側に加擔する、佛蘭西系統のものも英吉利系統のものも、皆獨逸を憎んで、英、佛を勝たせなければいかぬ、所が二千萬の獨逸系の人間は、どうしても已れの祖國を忘れない、そこへもつて來てスカンヂナビヤ方面から來て居る人間は、獨逸はお隣りだから獨逸を最厚する、何のことはない、千九百十四年歐洲戰爭の破裂したときには、米國內はまるで獨逸國民、英吉利、佛蘭西、伊太利、露西亞人等、凡ゆる歐羅巴の人間が皆自分の祖國に對して最厚をして勝手な熱を吐く。亞米利加國民といふ統一意識がどこにも現れて居らぬ。さういふやうなことは、これは國家として非常な弱點である。その中に今度は亞米利加がいよ〳〵戰爭に靖込むやうになる、そこで歐羅巴の波を見て居つた亞米利加の指導階級の見て取つたことは、亞米利加はどうしても純亞米利加化しなければいかぬ。それから純亞米利加化し得る可能性のある人種、その米化し得る可能性に應じて歐羅巴人の入國を調節しなければいけない。そこで大正十三年の移民法で極めて嚴格に例へば英吉利系が六萬、愛蘭は四萬、佛蘭西は四千、伊太利は戰爭前は一年に二十五萬から三十萬も許されて居つたものをこれを四千に下げてしまつた。詰り亞米利加人、

に言はせると、建國以來の吾々の本來の血筋の者並にこれに血統上近い獨逸系統、スカンヂナビヤ系といふものはこれは同化出來る。併し佛蘭西、伊太利のラテン系は結局同化せぬ。白人種の中にも優劣がある。アングロサクソンとか獨逸系は一番白人種中の優等なもの、それに次いで第二等はラテン系、それ以外の系統は一切入れない、日本人のやうな色の變つたものは勿論入れない。詰りハンドレツトパーセントアメリカニズム、百パーセント亞米利加主義といふのは、亞米利加が世界戰爭のときに憑りて今までの人種の塲といふ間違つたことを止めて、所謂純亞米利加化、米國の一億何千萬の人間を純亞米利加化しなければならない、純亞米利加化し得る少數人種のみいれてやるといふことになつたのであります。それがどうなつたかといふと、今まで亞米利加は富と地位を得たいものは來りて働いて取れ、自由の祖國で誰でも來いといふのであつた、であるから勞働者の不足を感じなかつた。併しそれは間違であつたといふことになつて外國移民の制限をすることになつたから、亞米利加の人口といふものは大分殖へなくなつた。それに加へて色々な物質文明の進歩に依つて國民の生活が向上する結果、自然にまた產兒調節といふやうなことが中等以上の人間に行はれるやうになつて來た。その爲に亞米利加は人手を省いて今まで人間がして居つた仕事を機械にさせなければならぬといふことになつた。人口を制限せられ、さうして一方歐羅巴戰爭の結果うんと

歐羅巴の金を取上げて世界一の富國となり國民の生活も向上して來た、これに應ずることが所謂繁榮政策で、玆に於てどうしても產業合理化、卽ち機械の力、材料並に製品の標準化、斯ういふことを行はざるを得ぬ。家庭に於ても女中を廢して電氣で掃除をするとかいふやうに、人間が手がなくてもやつて行けるやうに、亞米利加の機械化は、これは百パーセント亞米利加主義徹底の國策から來た結果なのであります。それは亞米利加のことでありますが、獨逸の方は先程言つたやうに、結局獨逸は澤山の海外支拂をしなければならず、海外支拂は經濟の理法に於て結局品物で拂ふ、輸出超過に依る外海外債務の支拂は出來ないから是非共輸出超過を圖らなければならぬ。輸出超過を圖るには大量生產で廉賣輸出である。玆に於て他の事情は犧牲にしても產業合理化といふことをしなければならぬことになる。そこで獨逸、亞米利加共に鼓ふて產業合理化を行ひ、今日の不況の最大原因である所の生產と消費の不均衡になつたのは獨逸賠償金が然らしめた獨逸の大量生產廉賣主義にあるといふことは、これは疑ひを入れない所であります。

一一

所が獨逸がその通りどん〳〵合理化を行つた結果――大量生產廉賣輸出をどん〳〵やる氣であるから、日傘まで獨逸製の物が來て居つたといふ話しですが、そのくらゐのことは獨逸がやつて居つただに違ひない――獨逸がそれをやり出すと各國が目が覺めて來た、これはいかぬぞ、吾々の產業も合理化しなければならぬ、米國も獨逸もやつて居る、吾々も產業合理化をして廉價な物を澤山拵へなければならぬといふので、第一獨逸の眞似をして產業合理化を他國もそろ〳〵やり出す。第二、米國をはじめ他國は皆關稅を非常に高くして、關稅といふ高い橋の頂上で獨逸の大量廉賣輸入を喰止める。だから獨逸の大量生產廉賣主義は當然に行詰るべき運命をもつて居つたのが恰度一昨年の秋からの世界不況の聲と共に行詰つてしまつた。さうしていよ〳〵今年から日本の金にして十億圓づゝ拂はなければならぬといふことになるのであるから、ヤング案で三分の一にまけて呉れたのは有難いが、いよ〳〵これで確定した六十年間の債務、六十年といへば孫の代までその債務を負はされる。これはどうも第一道理に合はぬ。犯罪人でも罪三族に及ばずと十八史略にある。それが二十世紀の文化時代に、その制裁が孫子の代まで及ぶ、獨逸人は六十年間いくら稼いでも稼いでも、孫子の代まで聯合國に毎年二十億馬克づゝ取られるのである。これは正義の上からいつても獨逸人が承服出來ないのは當り前であります。然らば獨逸は何故にヤング案を承諾したかといへば、佛蘭西をはじめ――主として佛蘭西ですが、ライン地方を十五年占領する權利をもつて居る。賠償金が解決

したので、佛蘭西はまだ五年期限をもつて居るのに昨年ライン地方から兵隊を退いて、玆にはじめてベルサイユ條約成立以來十二年目に獨逸は自分の領土内の占領から解放されたのであります。戰ひに負けて敵國に占領されて居るその地方の悲慘な狀態といふものは、私はあの邊を旅行して、戰爭には負けたくないといふことをつく〴〵感じた、日本ではさういふことは萬々ないことをお互ひに希望せざるを得ぬのですが、例へばライインの河船のデッキに、占領軍司令ラインランド高級委員といふのですが、要するに文官も行つて居る、占領地行政の本部から出した告示に、「この船の上で獨逸の國歌その他愛國的の歌を歌ふ者は占領軍行政部に於て軍法會議にかけて、これ〳〵の拘留並に罰金を課するぞ」と書いてある。だから萬々さういふことのないことを信じ、また希望しなければならぬのですが、假りに日本が他の國から戰さを挑まれて、國民が油斷して居つた爲に不幸にして負けて、さうして何處か占領されたとなると、占領地帶に於て勝つた白人種の彼等のやることはきまつて居る。白人種同士でもいまの獨逸の話しのやうに、こゝで獨逸の國歌を歌つたら拘留と罰金だぞといふのである、日本であつたら、こゝで君が代は勿論のことその他愛國的のことを言つた奴は、某國占領軍司令部に於て何箇月の禁錮と何百圓の罰金に處するといふやうなことを必ずやるにきまつて居る。私はそれを見たときに、白人種といふ奴は實に執念深い奴でこれはどうしても彼

等と戰さに負けてはいかぬといふことをつく〴〵感じたのであります。それが十二年間、獨逸の凡ゆる上流貴族、元の皇室の有つて居つた城とかいふやうなものは皆佛蘭西軍が占領して居つた。意地惡く、一番いゝ人のいゝ屋敷を、一番粗末な用事をする所に使つて居るのです、例へばベールといふ町で――獨逸の皇太子は皆ベールの大學で修學されたものですが、そこの皇族か或は大貴族の屋敷、それを私が行つて見ると、そこが佛蘭西軍の一番下等の用事をやつて居る野戰郵便部隊の場所になつて居つて、兵隊が泥靴でやつて來る、小荷物が來るといふ有樣である。無論また獨逸が佛蘭西を占領したら、もつとひどいことをやつたでありませう。佛蘭西からいへば當り前の敵打ちである。これがヤング案で賠償金が解決すると、このいやな佛蘭西軍が引揚げてしまつた、それを引揚げて貰いたい爲に、ヤング案に文句を言はずに判を捺したのである。もう今度はどんな苦言を吐いても佛蘭西軍はもう一度はいる氣遣はない、それはロカルノ條約に依つて出來ないことである。

一二

世界不況の行詰り、亞米利加の財布の口は締つた、ヤング案十億圓の金は拂ふ意思があつても拂へない。況んやいまゝで十五萬の佛蘭西軍が、ラインなどゝいふ一番立派な所を押へて居つた、日

本で言へば北九州と濃美平野を合せたやうな、重要性からいふとそれ以上の所を佛蘭西軍に十年間も占領されて居た、兵隊慰勞の爲に地方の娘達を兵隊に賣淫させる、さういふ風であつた、それが兵隊が引揚けてしまつたのだから、今まで堪へて居た鬱憤が極度に獨逸國内に張つて來たのであります。その鬱憤を一番正直に露骨に、誰れにでも分り易くその政策、綱領にして大活動をして居つたのが國粹社會黨で所謂ヒツラー黨、このヒツラー黨の先づ内政方面の主張は、大金融財閥の横暴をたしなめ、中産階級以下詰り頭から腕を働かして居る所謂勤勞して自己の生活を營み社會奉仕をして居る者、詰り中流以下の利害を基調としての政治をする。大金融財閥の横暴をたしなめ、言ひ換へれば、獨逸の金融財閥は猶太人の手になつて居る、そこで反猶太主義、だから金持が嫌ひ、金持が嫌ひであるから反猶太主義になる。講和條約は廢棄し、ヤング案に依る賠償金も廢棄する、斯ういふ風に旗幟鮮明なのであります。外のブルジョア黨派は色々妥協的のことも言はなければならぬ立場上また何時内閣を組織するかも分らない。所がヒツラー黨に至つては革命政治である、極めて徹底せる極めて假借しない、露骨に正直に、獨逸人の總てが腹の中に抱いて居る感情は、皆自分の政綱にして出した、さうして軍隊的に組織されたる青年活動團といふものがある、武器を持たない共産黨である、共産黨はピストルを持つて居るが、ヒツラー黨は腕で闘ふ、ヒツラー黨は武器を

持つての亂暴はしない一種の特色がある。このヒツラー黨なるものは、所謂國粹社會黨と日本で譯する、これは十四人かの代議士しかもつて居なかつたものが、一躍百七名で帝國議會の第二黨になつた。それは詰り、佛蘭西占領軍は行つてしまつた、今まで我慢して居つたものが、急に行つてしまつたので、考へて見れば口惜しかつたといふ譯になる、それから今年から二十億馬克づゝ拂はされる、馬鹿にして居やがるといふやうな譯で、失業者が二百八十萬もある。さういふやうな事情の下に行はれた總選擧であるから、ヒツラー黨がさういふ風に大進出をしたのであります。これと同時に共産黨も大いに殖えて第三黨になつた。要するに左右兩方の極右黨と極左黨が、この間の選擧で大進出をしたのであります。ヒツラー黨の進出は獨逸國民中の百中の九十五まで考へて居ることを正直に憚面なく言ひ出して、これを徹底的に實現させるといふ所にあつた。ヒツラーといふ氣遠ひじみた變つた熱血男子が、青年將校や地方の青年を集めてやり出したのが斯ういふことになつた。

一三

そこでこの事自身が今度は世界の對獨觀念を再び緊張させて來た。獨逸はヤング案に依つて安定し、その安定に依て佛蘭西は兵隊を引揚げたのであるが、その結果は非常なことになつてしまつ

た。講和條約破棄論、ヤング賠償支拂停止論、さうしてあゝいふ極右の革命黨と、一方には極左の共產黨が議會選擧で大進出をした、この二つは時々一緒になる、政府を否認したり、ベルサイユ條約を否認する時は一緒になつてやる。これは飛んでもないことになつてしまつた、獨逸は再び混亂狀態に陷るといふ印象が一般に殊に佛蘭西側にはひどく頭に響いて來た。さうなつて來ると佛蘭西では今まで獨逸に對して段々讓步し妥協して來たものが、これは少々廻れ右をやらなければならない。相變らず獨逸人は元の獨逸人である、我れ一步を讓れば彼一尺を進んで來る、これは佛蘭西もうんと獨逸に對しては腹を締めて掛らなければならぬ、さういふ風に佛蘭西の氣分がなつて來たから、大統領の選擧になると、ブリアン外交がいけないといふのでブリアンが落選する、そればかりが落選の理由ではないが、半分はブリアン外交否認の意味が含まれて居つたのであります。獨佛間がさうなつて來ると、今度は亞米利加や英吉利から見ると、これは歐羅巴は飛んでもないことになりさうだ。そこで益々歐洲不安の念が深刻化して來て、その歐洲不安の深刻化は例へば金融の梗塞を來す。それはどういふ事情かといへば、獨逸の經濟生活の大局は、兎に角六十年間大きな賠償義務を負ふて居る、各國に對して獨逸は大きな借金を長期でもつて居る、それであるから、社債、公債、私債といふやうなものを外國市場で長期のものを募ちうとしても、それは不可能のことなので

ある、普通の國ならば長期社債で機械の改善を行ひ工場の擴張をするといつたやうな事情の時に、獨逸では短期の外債を借りてやる、詰り外國銀行は獨逸銀行に向つて、獨逸は金利が高いから、コールマネーで利子稼ぎに外資が出掛ける、であるから、他の國は長期でやることを獨逸の會社は銀行から短期の借入でやつて居る。それからその銀行がまた外國から短期の借入金でコールマネーでやつて居る。そこで例のヒツラー黨の進出やら何やらで佛蘭西が眼を見張つて來る、さうすると獨逸では益々ヒツラー黨の氣焰が高くなつて來るといふやうなことになつて來ると、どうしても獨逸に向つての長期の外資は先づ絕對にはいらぬやうになる。一方で短期クレジットも、どうも獨逸はいつ革命になるかも知れぬ、或は獨佛再び戰ふやうになるかも知れぬといふやうな譯で、先づ和蘭あたりが引揚げる、亞米利加も引揚げる、英吉利も引揚げる。唯さへ行詰つて居る國內經濟界が、金融梗塞を來して經濟界が結滯するやうな事情になる。斯ういふ事情で本年の六月到頭獨逸政府は悲鳴をあげたのであります。

一四

失業者は、昨年九月の選擧の時には二百八十萬であつたのが、年末には四百萬、本年六月獨逸の

總理大臣が亞米利加の大使に泣付いて亞米利加へ行つて貰ひ、英吉利へ總理大臣を訪問に行つて泣付いた頃には、失業者は五百萬、さうして財政的に行詰つた政府は、到頭勞働者の失業手當にまで斧鉞を加へたのみならず、月額五十圓以上の收入の者は、勞働賃銀に依る收入と雖も非常所得稅をかけるといふやうな大奮發をやつた、さうして獨逸としてはやれるだけの奮發はやつたのです。そこで獨逸はこの行詰りを打開する爲に、賠償問題を何とかして貰はなければならない、これが亞米利加かに訴へ、マクドナルドに訴へ、ヒンデンブルグから亞米利加の大統領に哀訴するといふことになつたのであります。所がこれに對して英吉利は、獨逸ばかりぢやない、俺の方も困つて居る、兎に角關係國一般に考へて貰はふぢやないかといふやうな譯で要するに同情がある。亞米利加はどうかといふと、亞米利加の返事が即ち有名なフーヴァーモラトリアム、このフーヴァーモラトリアム程世の中に泰山鳴動して鼠一匹どころが鋤が畑を荒したやうな結果に陷つたものはなからうと思ふ。

これはどういふ譯かといふと、フーヴァーモラトリアムを六月二十日に聲明すると同時に、日本でも何十億とコールの値上りをしたが、東京の株式でも百萬圓も儲けた人があるといふ話し、伯林でさへコールが上つた、所がフーヴァーモラトリアムといふものゝ動機、及び含蓄して居る思惑に

付て、世界一般殊に歐羅巴の人とフーヴァーさんとは少し思惑が違ふのであります。歐羅巴の連中は——佛蘭西は暫く措いて主に英吉利ですが、賠償問題を打切りにするのも、亞米利加が他達に貸して居る戰爭中の立替即ち戰債を亞米利加が打切りさへすれば賠償金は取らぬでも宜い……實はこの點に付て御承知もありますまいから御話し申上げます。亞米利加の當時のウキルソン大統領は、米國は土地も取らなければ賠償金も取らぬ、非併合非賠償、亞米利加は聖人のやうな看板で出たのであります。それだけ聞くと非常に宜いのですが、然らば聯合國側に對して戰爭中に貸した現金にして、露西亞を除いて、百億弗の英、佛、伊、白耳義等に對する債權は亞米利加はどうするか、これはちやんと證文で普通の取引で貸した金であるから、どうしても取らなければいけない。賠償金のことは歐羅巴の喧嘩した問題だ、仲間の問題だ、俺の方は要らぬ、併し俺の方で各國に貸した金は一文もまけないといふのであります。これに對して佛蘭西側の主張は一番立派なのです。この間の戰爭はお互ひは共同の目的の爲に共同の戰さをして、同盟國總ての一切の資源を一緒にして使はふといふことでやつたのではないか、獨逸軍國主義に對する吾々自由主義の國の共同の立場でやつたのではないか、佛蘭西はこの僅かな人口の中から、二百萬といふ人間が或は死し或は永久に不具になつたのだ、それが皆働き盛りである。佛蘭西は四年半の間、佛蘭西資源の八割を占めて居る北佛

八縣といふものを敵軍に占領され、又味方の鐵砲やら大砲で、北佛八縣を滅茶苦茶にしたのだぞ、これには一つも値打を付けぬのか、亞米利加が俺等に立替へた軍需品やら食糧の代金だけは、是非とも取らうとするのはどういふ譯か、人間の生き血より金の方が尊いのか、況んやあの金は皆戰爭に使つたのぢやない、軍需品や武器だ、それを工場で拵へて、君の方で働いて、亞米利加で使はれて、亞米利加人の潤ひになつた金である。佛蘭西人の潤ひになつた金なら取立てるといふこともある、併し死んだ者はどうして呉れるのだ。斯う反駁した。佛蘭西の言ふことはその通りで正しいと私は思ふ。併し何としてもウヰルソンは應じない、承知しない。英吉利もやつたのですが、一言の下に講和會議で撥付けられたのであります。所が事實はどうなるかといふと、斯うなるのです。いま獨逸賠償金として聯合國が取り得るものゝ七十七パーセント、即ち一億圓取れば七千七百萬圓、十億なら七億七千萬圓、七十七パーセントは、英吉利、佛蘭西、白耳義、伊太利等が、米國に戰債支拂の爲に拂ふのである。だから何のことはない、東京へ留學する諸君の子弟と同じで、親父さんが月々子弟へ送る金は、結局學校とカフエーとダンスホールへ拂つて居るやうな譯で、えらい獨逸を苦しめて、六十年間奴隷のやうにして搾り上げる金が、自分の手許には、十何箇國合せて——日本は一文も借りて居ないから別ですが、日本以外は皆借金をもつて居る、それを皆亞米利加に捲き

上げられてしまふ、斯ういふ勘定になるのであります。即ち亞米利加の戰債は取立てるぞといふウヰルソンの主義は、賠償金はどこまでも獨逸をして拂はせるぞといふことに結果に於てはなるのであります。

一五

そこで獨逸はいま申上げたやうに、六月には英米に泣きを入れた、もう拂へませぬ、勞働賃銀收入の月額百馬克まで稅をかけて取る、官吏の俸給は昨年の秋から三度減俸をやつた——日本のやうな所では一年度内に三度も減俸をやられたらストライキをやつたかも知れない、併し獨逸の總理大臣は日本の總理大臣と少し違ふ、私は惡口言ふ譯ではないが、日本の總理大臣はあゝいふモダンな官邸に住んで居る、英國の首相官邸の如きは迚も貧弱で、我國の總理大臣官邸などゝは比較にならない。英吉利の總理大臣の官邸などは、何百年も前に建てた建物で、自動車もはいらぬ所に在る。モダン官邸に住んで居られる總理大臣には、年に三度も官吏の減俸は迚も出來ますまいが、獨逸の總理大臣は、官吏には三度も減俸さして、勞働者の賃銀月額五十圓以上には稅をかけるといふやうなことをやつたが、總理大臣ブリューニングは、總理大臣官邸に於てたつた三部屋しか使つて居ら

ぬ、總理大臣一人でそこへ乗込んで、そこで極めて簡粗なる老書生の生活をして居る。その直接の生活費に必要な分だけは俸給の中から拂ふが、その殘額は悉く官吏減俸實施前から國庫へ毎月寄附して居る人なのであります。

詰り話しはそこまで脱線せざるを得ぬのでありますが、フーヴァーのモラトリアムをやらざるを得ない立場を申しまするとと、賠償金を迎も拂へぬとなれば、なぜ拂へないかといへば、獨逸經濟生活の結滯行詰りからだ、この獨逸經濟生活を一休みさせても獨逸を復活させなければ、第一賠償金が永遠に拂へなくなる、賠償金が永遠に支拂不能になれば、亞米利加が聯合國から年額二億三千萬弗づゝ、向ふ六十箇年間英、佛、伊、白等から取るべき戰債支拂が取れなくなる。是が即ち米國が舊同盟から取るべき債權保全の爲にも、獨逸に對して何等か救濟の途を講じなければならぬ。これが第一。第二は、先程話した通り、百億に近い民間外資、この獨逸が借入れた民間外資の七十パーセントまでは亞米利加の金と思ひますが、兎に角六十パーセントにしても日本の金にして三十億圓、僅か五年の間に米國の財界が三十億圓を獨逸へ注ぎ込んで居る。獨逸の經濟破綻が確實化してしまつたら、この三十億圓は元も子もなく飛んでしまふのであるから、亞米利加人民は政府に向つて、これはどうしたのだと言ふに相違ない。だから日本のこの頃の政府のやうに、外國に於ける日本帝

國臣民のことなどどうなつても構はぬ、支那に打毆られたら引揚げさへすれば宜いといふやうなことは他國では流行つて居らぬ。即ち米國に於ける人民の債權確保といふ意味から、あの場合獨逸の經濟破綻を拱手傍觀して居る譯には行かぬ。もう一つの理由は、來年は大統領の選擧なのであります。フーヴァーはもう一度出なければならぬ。フーヴァーは御承知の通り繁榮政策の權化として、あの大人氣で、ルーズベルト以上の大多數で當選した、所が本家本元が大統領になつて一年そこ〳〵やると、それが一昨年秋がらつと破綻を現してしまつた。今日は失業者が八百萬或は一千萬と稱せられて居る、どうしてもフーヴァーは世界景氣の轉換に妙手を打たなければ來年の選擧には望みが薄くなる。そこでさういふ三つの事情から獨逸救濟の妙手を打たうと決める、その決める場合に、戰債打切或は戰債を大いに削減をしてやる、だから君達も賠償金をまけろ、言ひ換へれば、戰債及び賠償金再考査といふのであるが、いまそれを言つては、まだ亞米利加では、紐育あたりの物知りは皆賛成して居るのでありますが、中部、西部、南部の各洲の投票をする人間の多數は分らぬ。それであるからどうしても、一年延ばそうぢやないかといふあの不徹底なことをやるより外になかつたのであります。

所が借りて居る歐羅巴の方はさうは考へない。いよ〳〵亞米利加は夢が覺めた、もう何時までもない戰債はまけるぞ、うまく行くと棒引だぞといふので、伯林の株の値までもその爲に何十億も上つたのである。所がフーヴァーは、やる時に、日本政府も賛成して呉れとも言はない。ラヂオで聽いたゞけで、欣然賛成して呉れとも言はないのに、日本が欣然賛成したのはおかしいが、要するに對獨債權を亞米利加が勝手に處分してしまつた。けれども佛蘭西は承知しない、佛蘭西の立場からいふと、第一佛蘭西に相談しない、英吉利と亞米利加と獨逸でこれをやつた、英米は獨逸を援ける爲に佛蘭西に犠牲を强ゆる。佛蘭西が犠牲と感ずるのは數理上當然である。先程御話した通り、佛蘭西は賠償支拂年額の五十二パーセントを取る、あとの四十八パーセントを十一箇國かゞ分ける譯です、それで佛蘭西は、自分の取り分から英吉利と亞米利加に對する戰債支拂をして、さうして尙ほ手取り日本の金で二億圓殘る。その佛蘭西へ日本に對してのやうに碌々口をきかずに、さあ君賛成したまへと出たのです。所が佛蘭西は承知しない、第一佛蘭西が一番大きな債權者ぢやないか、佛蘭西は賠償金五十二パーセントの債權者だ、第二に佛蘭西は占領地にまだ期限があるのに、引揚

けてしまつて、賠償問題を決めたのである、第三に吾輩の方は、賠償金の中から君の方へ借金を拂つて、ちやんと二億圓殘る、この二億圓を君が俺に相談をせずに勝手にしやうといふのか。斯ういふやうな譯で、佛蘭西は亞米利加を一つ挫いてやれと考へた。フーヴァーの方から言ふと、英吉利も含めて居り、英米聯合してやれば、佛蘭西が兎や角言つた所で何でもない、佛蘭西も最圖々々言ふ中に泣寢入りをするにきまつて居る。要するに日本の政府と佛蘭西の內閣とを取遣へて居つたのです、日本の內閣は默つて居つても欣然賛成するから佛蘭西もさうだらうと思つたらさうでなかつた、うんと捩つて捩り廻つて、さうして結果は結局先づ九分通り佛蘭西の主張を容れた。當時の米國大使が主張して居る如く、一體フーヴァーモラトリアムは、興奮劑、カンプル注射と同じものである、或は重病患者に日本の醫者がやる上等の葡萄酒を飲ませるのと同じことである。この頓服、興奮劑戟劑の注射を、病人達が文句を言つて居たときにはその刺戟がない、であるから早く相談して、フヴァーさんの言ふ通りやらなければいかんと言つた。所が佛蘭西は、うんと文句を言つて頓服劑を病人の言ふ通りやり直さなければならなくなつたのであります。

その結果どうなつたかといふと、獨逸は兎に角フーヴァーのモラトリアムの發表された當日は、伯林も景氣が好かつた、その中に佛蘭西がぐん〳〵捩れ出した、佛蘭西の政治家は日本の政治家と違つて頭も好いし押しもある、あの當時面白い話しがある、亞米利加の大藏大臣が毎晩電話でフーヴァーと、「一體歐羅巴の政局は割合に混がらかつて居るのか。」「俺は知らぬ。」斯ういふなやうな話しをして居つたさうで、佛蘭西の方では、亞米利加の奴等歐羅巴の政治を見てびつくりしていやがるといふやうな譯で、實際認識不足で、佛蘭西の立場と意識と、獨佛の政治事情を、米國の大統領も政治家も知らなかつた。そこでさー大變なことになつたといふやうな譯で、今度は獨逸人自身が自分の國の金に對して信用が出來ない、佛蘭西が頑張つて居れば駄目だといふので、先づ獨逸人がどん〳〵銀行から金を引出した。さうして和蘭、佛蘭西の金に替へる。それが爲に獨逸から金が逃けるから、緊急大統領令でもつて、勞働者の賃銀、社會政策に關する法律に依つて出す金とか、租稅とか俸給の外、一切銀行から金を出すことが出來ぬ、或は貯蓄銀行に於ては二十馬克以上金を出してはならぬ、一般銀行はいま言つた賃銀といふやうなことの爲に金を出す外、金を出すことが出來ぬといふやうな、色々な緊急勅令で金の逃けるのを防がうとしたけれども、盛んに逃けてしまつた。それで獨逸中央銀行の金準備は、法律上四十パーセントであるのが、二十六パーセントぐらゐ

になつてしまつた。そこでその間獨逸の方では、英吉利の外務大臣の周旋で、到頭獨逸の外務大臣と總理大臣が巴里へ出掛けて行づたのであります。佛蘭西は佛蘭西で、フーヴァーを捻り潰した腕で獨逸を捻り付けて置かう、何となればヒツラーイデオロギーが獨逸外交の指導原理だ、ラインの地では國防均等權を主張する、この際獨逸を十分捻り付けて置かなければならない。さうしていよ〳〵獨逸は行詰つて來た、到頭亞米利加も英吉利も獨逸を援ける力がない、獨逸を援ける力を有つて居るものは佛蘭西だ。なぜ佛蘭西が獨逸救濟の實力をもつて居るか、これは亞米利加の大統領も氣が付かなかつたのであるから、日本ではまるでさういふことは氣が付かぬ。佛蘭西の實力とは何ぞやといへば、いま歐羅巴で一番偉い國は佛蘭西である、英吉利も頭を下げて居る。一番力があつて一番偉いのは佛蘭西である。それは三つ要素があるのであります。一つは、世界第一の軍備をもつて居る、陸軍も空軍も有つて居る。例へば英吉利と佛蘭西の空軍を比較すると、佛蘭西は第一線に使ふ戰鬪機が一千四機、英吉利は四百機しかない、玆に英佛間に何かいざこざがあつたとすれば、英吉利は戰はずして佛蘭西に降參する外はない。佛蘭西が武力を用ひれば空軍でやられてしまふ。佛蘭西の强いのは第一に武力。併し武力は直ちに政治的に效果は現はれない、今度のやうな場合には財力である。財力とは何ぞやといへば、いま世界中の金を亞米利加と佛蘭西で四分の三持つて居

る。世界中の七十五パーセントの金を亞米利加と佛蘭西だけが持つて居る。亞米利加が先づ五十パーセント持つて、佛蘭西がその半分持つて居る。日本の金で言ひ現せば、亞米利加の金は百億に達した譯ですが、二三箇月前には八十何億、佛蘭西が四十何億。この四十何億といふ金が、亞米利加が獨逸へ貸した一部の金のやうに、長期の貸し方でやつて居るのではない。佛蘭西は短期で、例へば倫敦へ、日本の金で十五億ぐらゐは短期でやつてある、伯林へも紐育へも、十億近い金は短期で貸付けてある、亞米利加の大統領を巴里談判で捻つたときに、亞米利加の大統領が遂に腰が碎けたのはどういふ譯かといへば、紐育の銀行家が行つて、餘り佛蘭西を抑へ付けると、佛蘭西が吾々に短期で貸してある金が五億ある、これを佛蘭西が引出すぞ、さうすれば紐育の財界が混亂するから、好い加減にして呉れと言つたから、フーヴァーは遂に妥協しなければならぬことになつたのであります

一八

そこで佛蘭西は好い氣になつて、俺だけが獨逸を援けてやる力があるのだといふので好い氣になつたので、獨逸もいよ〳〵仕方がない、佛蘭西に頭を下げやうといふので、六月末が七月初めに獨

逸の總理大臣が外務大臣と共に佛蘭西へ出掛けたのであります。その時には、日本の新聞では、非常な大歡迎で、熱烈なる數萬の民衆が獨逸の兩大臣を歡迎したと書いて居りましたが、あれは歡迎でも何でもない。日本人は、大勢寄れば大歡迎をして呉れるのだと思つて居るが、さうではない、どんな面して頭を下げて來たか、愉快で堪まらぬから見に來たのである。亞米利加の大統領と英吉利のマクドナルドとに縋つて變なことをやつたが、到頭佛蘭西へ頭を下げて來た、そら見に行けといふので、巴里つ子は愉快で堪まらず見に行つたのであります。所が獨逸の總理大臣は——餘談になりますが——餘程偉い男である、福澤さんが見えた時などは、私はあゝいふプリューニングなどゝいふ代議士のあることを知らなかつた、無名の一陣笠、年輩から見ると本年日本の四十七で私より十も下なのです。それが最近五六年の間に到頭あゝやつて獨逸の獨裁政治を殆んどやるやうになつた。この人は戰爭中は一年志願の將校で、西部戰線上に出て機關銃隊を率ゐて一番むづかしい佛蘭西の陣地に突擊して、戰場に於て非常に武勇を現した人であります。佛蘭西の總理大臣も同じく四十七歳で、これもベルダンの戰爭に三年の間一兵卒として生死の境を潛つて來た人である。少しそこらの政治家とは譯が違ふ。そこでいま日本の如何なる政治家でもその獨逸の總理大臣が、六月末にいよ〳〵佛蘭西へ外務大臣を連れて行つて、數萬の巴里つ子が見に來たときに、假りに日本の

總理大臣か外務大臣が、亞米利加か佛蘭西へ頭を下げに行つて、態々面下げに來やがつたと言はれたときに、獨逸總理大臣が示した如き、冷靜、謹直、欣然たる態度を示し得る政治家は日本にはないと私は斷言する。華盛頓會議で聲を震はせたといふことで有名な話しがあるが、獨逸の總理大臣四十七才の若僧は、平氣な顏をして佛蘭西の外務大臣と手を握つてホテルへ來て、新聞記者が押掛けて來ると、「獨逸の經濟破綻は歐洲全般の不幸、否世界の不幸だ、この歐洲の不幸世界の不幸である所の獨逸の經濟破綻問題を處理して、これに一つの轉機を與へるといふこの重要な仕事に、君等の國の總理大臣及び外務大臣と商議協力をすべく巴里へ來たことは、本大臣の頗る欣快とする所だ」これは實にその態度といひ何といひ立派なものであります。日本には明治時代にはあつたけれどもあんな人は今はない。これはもう斷言して差支ない。死生の間を經て來た人間、それから四十七八歳ぐらゐの總理大臣が日本にも出るやうに早くしなければいかぬ。この頃のやうに七十老人が頑張つて、實業界でも何處でも老人はいかぬ、老人といふものは記憶が弱くなるだけでもいかぬ、吾々もさうですが……そこで雜談はそのくらゐにして置いて、佛蘭西へ來ました所が、佛蘭西の方ではどうしても援けてやりたい、併しそれには條件がある。講和條約を全部忠實に永遠に守つて呉れないと佛蘭西は困る。ベルサイユ條約を破棄して、國防對等になつて毒瓦斯や飛行機を持たれると困

る。何時やられるか知れぬからベルサイユ條約永遠確守、即ち佛蘭西のその當時使つた言葉を以てすれば、佛蘭西をして安心して獨逸に經濟的援助を與へしむるに足るべき政治上、財政上の擔保を保證して呉れ、さうすれば佛蘭西は喜んでやつてやる。そこで佛蘭西の出した案は、十箇年間の期限で十億圓の借款を獨逸にしてやらう、併ながら獨逸稅關を擔保に取る。これは非常に面白いのです。それより先本年三月に、獨墺二箇國の關稅條約の豫備同盟をした、それで佛蘭西は、獨逸は墺地利を併合するのであらうといふので癪に障つて居つた。そこで稅關を十億圓の借款擔保に取つて置けば、關稅同盟の條約は出來ても實施は出來ない。所がこれに英吉利は賛成しなかつた。それで獨逸の方でいま一つ佛蘭西から言ひつけられたことは、現に角君の方の「鐵の兜の軍人團」——これは在鄕軍人團でこれが本年の春波蘭に近いビロズレーといふ町で、このスチールヘルメット團、所謂出征軍人團が十五萬も集つて大觀兵式をやつて、元の皇太子やザクセン王なども軍服を著て出て閲兵をやつた。これは佛蘭西にとつては大變なことである、そのスチールヘルメット在鄕軍人團の名譽會長はヒンデンブルグ大統領である。そこでスチールヘルメット團を解散して貰ひたいといふのである。所が獨逸ではそれを承諾したらヒツラー黨が國内を破裂させるといふのであるから、如何なる内閣と雖も佛蘭西に妥協したくてもこの問題は承諾出來ない。

一九

そこで巴里の獨佛兩國主腦部の會見も問題にならず、次いで倫敦の七箇國會議となつたのでありますが、あの時佛蘭西は頭を振つた、英米が動もすれば佛獨關係に口を入れる、生意氣なことを吐かす、倫敦會議でそんなことを一言でも言ふものなら佛蘭西は參加しない腹であつた。倫敦會議は幸ひ米佛間にフーヴアーモラトリアム案實施に必要な、經濟金融事項のみ協議處理する條件の下に佛蘭西は參加した。それ以上の問題では參加しても仕方がない。英米は捻られ序でだから、それで結構だから出て呉れといふので、そこで佛蘭西も出掛けて、マクドナルドをうんと捩つて、お陰でブリューニングは一文も金を貰はずに歸つた。これも偉い、佛蘭西の言ふ通りになりさへすれば十億の借金は出來る、併し獨逸人はベルサイユ條約遵守といふ證文を改めて書直さうといふ氣は誰しも持つて居ない。又それに類したものを書くものなら獨逸は直ちにヒツラー黨と共產黨で破裂さしてしまふ。斯ういふやうなことでフーヴアーモラトリアムは行悩んで、益々獨逸財界を結滯さして居る。さうして獨逸に對して短期貸付を一番餘計に貸して居るのは亞米利加の銀行です、佛蘭西は五パーセントしか貸して居らぬ。例へば獨逸銀行でいま殘つて居るのは七十億馬克ばかり短期クレ

ヂットがある、その中亞米利加が先づ七割、あとは英吉利が一番多くてそれから和蘭、瑞西である。倫敦會議で英吉利のスノーデン藏相が佛蘭西の總理大臣に斯ういふことを提議した。獨逸に於けるクレヂットをその儘据置きにすることは危險を伴ふことであるから、この危險を英、米、佛三國に均等しやうぢやないか。斯ういふ提議をしたのである。これは蟲のいゝ話しで、亞米利加が七割近く貸し英吉利が三割近く貸して居る、佛蘭西はたつた五パーセントしか貸して居らない、それでこの七十億のクレヂットの危險を均等にしやうとすれば、佛蘭西は英吉利や亞米利加の爲に餘計な負擔をすることになる。そこで佛蘭西の總理大臣ラヴアル氏が、それはどういふ理窟であるかと、一言の下に英吉利の提案を撥ねつけてしまつた。國際會議などゝいふものはさういふ風に行かなければならぬ。

二〇

それで先づさういふやうな狀況で、玆にフーヴアーモラトリアムの結果は、第一獨逸の財界を惡化した、第二、ショートクレヂットを安定させる結果は、今米國が困つて居るのは、六十億馬克近いといふのですが、先づ二十億かそこらの、米國銀行が獨逸へ貸して居る短期クレヂットが、列國

關係に依つて引揚けられないものであるから、それが獨逸の銀行が行詰つて居る一つになつて居る、英吉利はどうなるか、やはり來年の軍縮會議に獨逸の味方をしやう、それから今度のフーヴァーモラトリアムに付て佛蘭西の態度も癪に障る。そこで佛蘭西の方では、一つ英吉利に目に物見せてやらうといふ意氣が上下一致して居る。そこで倫敦會議の初め頃から、佛蘭西はどん〳〵倫敦に貸してあつた短期クレヂットを引出した。毎日飛行機で金を一千萬圓、二千萬圓といふやうに運んで、僅かの間に三億圓ばかり倫敦から引出した。英蘭銀行の金準備が十六億に少し足らぬ。そこで三億引上げられたから、到頭英吉利が佛蘭西に頭を下げて、佛蘭西から二億五千萬圓、米國からも二億五千萬圓、合せて五億圓のクレヂットを貰つた。それで五億圓のクレヂットで、金引出しの堤防を築いたのであります。所がこれは斯ういふ事情であります。佛蘭西は英吉利の市場で、十五億から二十億近い短期クレヂットを貸してある、これを毎日飛行機で取り出して、一週間か十日程の間に三億程引揚げた。例へば英吉利は銀行である、そこへ何百萬と預けて居る人が毎日五十萬づゝも出すとなると、お隣りの小さい預金者も默つて居られぬといふので、瑞西、和蘭といふやうな小さい銀行が、これは大變だといふので引揚げた。さうすると英吉利人が驚いて弗に替へたり法に替へてしまつた。そこで磅はどうしても危險狀態、所謂兌換中止をしなければならぬ。危險が眼前に迫つ

て來たから……米佛から借りた五億圓のクレヂットは一週間で消えてしまつた。まだ和蘭、瑞西へどん〳〵金が流出する。そこでマクドナルド内閣が行詰つて、いまの協力擧國一致内閣といふことになつたのであります。それになつたから今度は又改めて佛蘭西から四億圓、亞米利加から四億圓、合計八億圓のクレヂットを米佛から借りたのでありますが、その又一週間の間に佛蘭西からの四億圓がなくなつて、亞米利加の方も、佛蘭西の四億圓がなくなつた頃には、既に日本の金にじて一億六千萬圓ばかりがもうそれへ手が著いて居つたのであります。そこで結局フーヴァーモラトリアムを見て獨逸も弱點を出し、英國も癪に障るから目に物見せてやれと佛蘭西から倫敦の金を引揚げられて參つてしまつた。結局七月から先月の二十一日英國政府が兌換中止の告示を出すまでの間に、二十億圓といふ正貨が倫敦から逃げ出したのであります。

二

茲に於て英吉利はどうしても兌換中止をやらなければならないことになつたのであります。それは斯ういふ事情なのであります。極く分り易く言へば、英吉利は大なる銀行なのです、英吉利は今日倫は海外に少くとも四十億磅、四百億圓の在外債權を有つて居る、日本などは小さい借り主の方

で大したものぢやない、英吉利の方からいふと餘りい、お得意でもない。一番大きいのは亞爾然丁、伯剌亞爾、亞爾然丁だけに英吉利が貸してある金が、亞爾然丁の鐵道は殆ど英吉利の金で出來たもので、先づ七十億は亞爾然丁の鐵道に貸してある。伯剌西爾にも五六十億貸して居るでせう。所が世界不況で珈琲が賣れぬから、伯剌西爾政府は最近外債利子支拂を停止した自分で外債支拂モラトリアムをやつてしまつたのである。それから、英吉利の經濟は斯ういふ譯なのです。英吉利といふ國は、御承知の通り、輸入超過の國である、物品の輸出入からいふと、何十年といふ間輸入超過をして居る。然らばこの決濟を何でして居るかといふと、隱れたる輸出である、隱れたる輸出とは何かといふと、サービス、稅關竝に海外投資の利益及び利息。これはどういふことかといふと、詰り英吉利は世界の大銀行である。世界中で、公債を募る社債を募るといふには倫敦へ行かなければならぬ。戰後には紐育になつたが、それでも倫敦と紐育と提携してやる。それから英吉利は世界一の海運國である。商船を澤山もつて居る、商船の稼ぐ運賃、それから保險、主として海上保險。それからその外に、英吉利が段々世界戰爭で金を使つて、昔の英吉利ではなくなつても、いまの四百億圓といふ海外投資、これから來る配當やら利息。そこで平常の政情のときには英吉利はどうなるかといふと、この隱れたる輸出卽ち國際貸借であります、その取引の中に二種類ある。保險、運賃

といふやうなものは勤勞奉仕で、これに對する收入。もう一つ、伯剌西爾、亞爾然丁その他の各國に金を貸して居るその利拂といふやうなものは、勤勞せざる不勞所得。この二種類ある譯であります。大抵物品の輸入超過は、勤勞所得たる保險料、船舶運賃等で決濟が立派について、何百億といふ海外投資の貸金から來る利子、それから株券の配當等は、そうつとその儘とつて置いて、これを又海外へどん〳〵投資して居つたのであります。戰後段々英吉利は不況になつても、尙ほ、例へば世界不況の第一頁を開いた一昨年の英吉利の國際貸借の統計を見ると、今言つたやうに、食糧及び原料品の六割乃至七割は海外から買ふのでありますが、その輸入超過を決濟して尙ほ且つ翌年度に海外投資をした額が、日本の金にして十五億圓程あつた。それが昨年三億四千萬圓に減つて、本年は赤字が出る。海外投資から赤字が出るやうになつて、國際貸借上政府の歲計は、日本の金にして、來年度に於ては十七億赤字が出る。國際貸借に於ても赤字が出る。これでは英國は平價維持が出來ないから、已むなく兌換中止をやつたといふやうな譯であります。

三

さういふ譯で、フーヴァーの擦つた擦寸の爲に方々飛火して到頭英國が兌換中止の已むなきに至

つたのであります。これは私は或る政治家に言つたのでありますが、世界混亂は日本にも大きな關係があるぞ。先づ金融經濟の方からいふと、これは私は井上君が總理大臣官舍で實業家に言つたのを新聞で見たのでありますが、これは日本の大藏省が外國通信員に渡すのならこれで宜い、併し國內の實業家のリーダーとの話しとしては餘りに他所行きの話しであります。例へば磅が今平價から二割五分下つて居る、これは日本に對して金錢上どういふ影響を與へるかといへば、數日前に大藏省の理財局長が或る所で話したのを見ると、日本の民間が——政府は今在外正價は倫敦で持つて居らぬ、これは本當らしい。日本の民間が倫敦で持つて居る正貨は二億何千萬圓、假りに二億圓として、日本の金十圓で一磅に替へて持つて居るに相違ない、一磅が九圓九十八錢いくら、然るに十圓の磅が二割半ばかり下つて七圓四十錢ぐらゐになつたのだから、二億圓の民間の在倫敦正貨が、二割半今日で既に下つて居るのであるから、その方だけで少くも五千萬圓といふものは、どこの銀行が持つて居るか知らぬが、日本の銀行の方の損になつた譯であります。日本の一流所の大銀行や財界の巨頭連は、磅の兌換中止をするその前日あたりまで、磅を買つて居つたのであるから、日本の連中の英吉利通も程度が知れたものであります。どうしてもフーヴアーモラトリアムで、米國に頭を下げて、クレヂットを貰つた時に、日本の大銀行連が磅を買ふことを止めるのが本當である、所

が兌換券を替へるといふことは不可能だといふやうなことを固く信じて居るから、いよ〳〵英國政府が官報で出すまで磅を買つて居つたのであるから、これの損失といふものは、二億としてもこれだけで五千萬圓であります。先月二十一日以來日本の財界は五千萬圓損をして居る。もう一つは、凡そ海外貿易に於ては、一國の商業政策といふものはこれでなければいけない。即ち國內の事情の爲に低率化してはいけない。濱口君の所謂物價を安くするといふことは、物價さへ下ればそれで宜いといふことではいけない、低物價といふことは不景氣といふことである。今日歐羅巴の惱みは、世界の不況は低物價から來て居る、であるから、もし少し値を上げるやうにしなければいかぬ、それであるから伯剌西爾では、珈琲の値の下落を防ぐ爲に、政府の命令で、折角拵へ上げた珈琲を燒いて居る。米國ではテキサス州では棉を三分の減作しやう、オクラハマ州では、石油の掘り方を三分の一減らせるやうに、知事が軍隊をやつて石油の產出高の制限をやつて居る。詰り今日の世界の不況は、物價が暴落した結果である、英吉利の惱みもそれである。だから低物價を絕對的目標として政府が政策を執るならば國內の不況を來すのは當然である。今日如何にして物價を上げやうかといふことを各國は皆苦心して居る。折角出來上つた品物を政府の命令で燒かしたりして居る。國內では先づ相當の程度に、卽ち生產費を引いて尙ほ且つ利潤の出るやうにして行かなければならぬ、

海外に向つては、出來るならば海外市場に於ては、輸出品は低物價でなければ賣れない。然るに日本の舊平價に依る金解禁なるものは、國内に於ては低物價、國外に於ては高物價にしたから日本の輸出は振はないのであります。今度は英國が磅の兌換中止をした結果二割半下つた、その結果はどうかといふと、今まで支那市場に於て、南洋に於て、亞米利加に於て、印度に於て、日本の纖維工業品綿絲綿布、さういふものはどん〳〵英國品と競爭して、英國品を驅逐してあの通り進んだ、そこで關稅を上げるとか何とか色々やられたけれどもそれでも大したことはなかつた、然るに今度英吉利の方で兌換中止をして、磅を二割半下げた爲に、もう日本の品物は英國品に驅逐されて來た、最近の孟買領事の電報を見ても、どん〳〵日本の品物は英品に驅逐されて居る。更に日本は世界で三番か四番目の海運國であるが、この海運業はこれ又英吉利の方では磅建でやつて居るので、これ又英吉利船は二割半下ると同じなんだ、日本の方はこの二割半値下した英國商船と競爭せねばならず、既にこの競爭に堪へず、極めて最近の事實としては、浦潮からの滿洲產豆粕の積出しは、今まで皆日本の船であつたのが、英國が兌換中止以來、英船の運賃が二割以上下つたので全部英吉利に取られてしまつた。尙ほ海上保險會社にしても同じことであります。

二三

それから磅が斯ういふ風になつたといふことは、もう一つまだそれ以外に日本にとつては大きな影響があるのであります。從來日本の輸出品は、南洋、印度、支那へ賣るものは、皆倫敦で磅拂ひになる、輸入品も倫敦で決濟をつける。日本の輸出貿易は減つたけれども、それでも尙且つ十何億くらゐはあるでありませう、その輸出貿易の商業磅のこちらの受取値が二割半減る、又二割半減つた磅で拂はなければならぬから、二割半餘計金を付けてやらなければならぬ。

さういふ風であるから、今度どうなるかといふと、正貨といふものを一遍なくしたら歸つて來ない。本當の金貨制度を維持する力があるのは亞米利加と佛蘭西だけである。日本などは當然金輸出を再禁止するものと世界で決めて居るのであるから、幾ら大藏大臣が頑張つて居ても駄目だ。詰り今日本で、この間正金銀行が六千萬圓現貨を輸送した、これはどういふことかといふと、もう英國が兌換中止をした以上は、日本も輸出禁止をするに相違ない、であるから今のうちに亞米利加の金を買つて置く方が得だからやつて居るのであります。そこで今東京に於て弗爲替を買込む者が多いといふことをいつて居るが、この弗爲替が十一月から十二月への先物の取引が非常に多いのです。

であるから年末までには大分出るだらうと思はれます。日本の金解禁、昨年一月十一日以來今日まで、井上藏相が昨日十日に言つて居つた數字に依ると、二億六千萬圓金が出たことになる、所がこれはもつと出て居るので、その間に各會社の社債、支那や臺灣から出た金も新しくはいつて居るから、決濟して二億六千萬圓といつて居るのでありませうが、實際は四億近く出て居るのであります。日本人が持つて居る外貨證券が三億八千萬圓、この三億八千萬圓といふものは、昭和四年末卽ち金輸出を許す以前である、卽ち金輸出解禁直前から見ると一億一千六百萬圓程日本人の手持の外貨證券が殖えて居る、だから二億六千萬圓日本の正貨が出て、その中で輸入超過を決濟して、尙ほ一億一千萬圓日本人は外貨債券を買取つた、斯ういふ計算であるといふことになる。これは表面さうなる。そこで日本はなぜ外貨證券を買込んだか、卽ちこの低物價政策の結果、國內の產業は萎微し、購買力は減つて、さうして銀行へ皆金を預ける。銀行では預金利子を六朱から五朱、四朱何厘に下げてしまつたが、それでも金が寢て居るのであるから、どこからか利鞘を稼いで來なければならぬから外貨證券を買込んだといふ譯であります。決してこれは喜ぶべきことではない、國內に於ける事業不振竝に銀行が預金利子を拂ふことが國內では出來ぬから、已むなく海外債券を買つてその利鞘で預金者に四朱何厘の利子を拂つて居るのであります。所が皆磅證券を買つて居つて、それが二

割五分も今では下つて、五千萬圓も損をして居る。

二四

斯ういふ風に、まだ世界の不況は當分直らぬのであります。英吉利の磅といふものは、世界各國の標準貨幣である、世界各國の商業手形は倫敦で決濟される、倫敦は世界の帳尻の決濟所であります。さうしてこの基準貨幣の磅が斯ういふやうになれば、これは世界經濟の大混亂です。これだけでも世界の不況は當分直らぬ。吾國としても、世界の景氣が當分直らぬといふことを前提として歐洲各國がやつて居るやうに、國內の經濟生活を少しでも萎縮させぬやうに、非常經濟時に於ける特別非常の經濟政策を政府としては執るべきものである。私はそれを內務大臣に友人として說明して置いたのであります。然るに日本の政治家は、兎角行掛りにとらはれて居ていけない。間違つて居つたら躊躇せずにやり直せばいゝ、この席には民政黨の人も政友會の人もおいでになるかも知れませぬが、私は日本黨で天皇黨で國家黨である。內閣の一員が過ちをやつたからといつて一蓮托生などゝいふことはどこの立憲國にもない、一人の大臣が過ちをしたために全內閣が引く必要はない、その過ちをした大臣が引けば宜い、總理大臣の意思に出たことならば總辭職すれば宜い。現に獨逸

に於て、獨墺關税問題がまづく行つて破棄しなければならなくなつたから、外務大臣はやめた、所が原さんは、中橋文部大臣が學校問題で貴族院で責められた時に、中橋文相一人をやめさせれば濟むのに、一蓮托生だといつた。この一蓮托生は政黨の人には非常に都合が好い、少々惡いことをやつても一蓮托生主義で行けば最後まで喞り付いて行ける。斯ういふ間違た例を開いたのは原さんで、變な親分氣質を出して一蓮托生をやつたものである、それが近來は親分兒分の關係がなくても、人民がいくら迷惑をしても、喞り付きたいものであるから直ぐに一蓮托生を言ひ出すのであります。

そこで私は申上げたいのは、世界は非常な混亂である。そこで、世界の景氣が直るまで我慢しろとか、世界が不況の爲に日本が特に不況だといふ政治者流の宣傳は悉く嘘である。十日に實業家に話した井上君の話しは、非常にうまく言つて居るが、これを額面通りにとつても、當分は日本はどうにか金輸出禁止をしなくても行けるといふだけである。實に今日の世界經濟は一大混亂狀態であります。さうして日本もこの混亂の渦中に捲込まれつゝあるのであります。

この世界經濟の混亂中に、更に滿洲事變の突發を見るに至つたのであります。この滿洲問題は、吾國に取つては國民生活上の死活の重大問題であることは既に諸氏の御承知の通りであります。以下暫らくの間此の滿洲問題に付てお話し申上げたいと思ひます。（以下次號）

編輯後記

◎最近全國各方面より、國際問題殊に滿蒙事情に就て正しき認識を把握するに充分なる資料を是非提供せられたし、との熱心なる要望が絶へずあるので、今回特に其の方面の權威者たる、本多前駐獨大使の解說を掲載することゝした。

◎本篇の內容は、大體獨逸を中心とする最近の國際問題と滿蒙問題とに二大別されるが、經費の都合上滿蒙問題を次回の第十五輯に讓らざるを得なかつたことを特に諒とせられたい。（係）

「第十三輯」訂正

頁	行	誤	正
二〇	六	組合がある	區がある
同	同	組合の中	區の中
同	同	組合長を	區長を
二四	三	ホーウエ	フオーリー
同	四	ホーウエ	フオーリー
同	五	ホーウエ	フオーリー
同	一〇	ホーウエ	フオーリー

自治資料パンフレット　第十四輯
（實費　送料共　金五錢）

昭和六年十二月二十四日印刷
昭和六年十二月二十九日發行

編輯兼發行者　福井清通
東京市四谷區三光町八番地

印刷者　田中彌助
長野市岡田町一七六番地

印刷所　田中印刷合名會社
長野市岡田町一七六番地

發行所　全國町村長會
東京市四谷區三光町八番地
電話四谷一九三〇番
振替東京四七六九七番